

令和7年度 かほく市立金津小学校 学校評価最終報告書

経営目標	取組内容	主担当	(昨年度末最終達成状況) 現 状	評価の観点	達成度判断基準	備考	取組状況	達成度(判定) + - 中間報告との比	次年度の方向性 (改善計画等)	学校関係者評価者(学校運営協議会委員)による意見
1 学力の向上	ア★ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、授業改善を図る。	学習指導 (関)	(A:90%以上) ・授業の始まりにゴールの姿を児童と共有し、学習方法や道具を選択し、自己決定する機会を増やすようにした。また、個に応じた指導のために、児童の見取りを大切にすることができた。	【努力指標】 個に応じた指導や支援を行うために、考えをもつ時間や場を設定して、学び合いにつなげることができた。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	0の場合、要因を明らかにして、重点の再確認・検討をする。	教員自己評価	100% 1:80% (+40%) 2:20% (-40%)	A ・相互参観週間や授業の機会を生かしながら、教員間で更に高め合えるようにする。	・改善計画通りにお願いしたい。  一相互参観週間を含め、授業の取組等、どのように推進していくか研究部を中心に話し合い、方向性を決める。  一「あさはよし」の取組について、どのような位置付けで取り組んでいくか検討を重ねる。
	イ 学び合いの土台となる「金津っ子学びのスタイル～あさはよし～」の着実な定着を図る。	学習指導 (関)	(B:80%以上) ・相互参観の時期に合わせて、それぞれのクラスで「あさはよし」のめあてを決めて取り組みを行った。自分たちのレベルアップを目指してめあてを設定し、指導する教員の意識も高かった。	【成果指標】 5つの項目について、児童は常に意識し、一定の定着率に達している。	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	0の場合には、指導のあり方を検討する。	児童アンケート	92.8% 1:34.5% (-29.1%) 2:58.3% (+31%) 3:3.6% (-1.9%) 4:3.6% (±0%)	A ・「あさはよし」の内容やその意義を改めて見直すとともに、全職員で共有した上で活用を行っていく。	
	ア★ 1人1台端末の積極的な活用で効果的な学習に努める。	GIGA推進 (北)	(A:年間7回以上) ・今後も月1回程度の研修を行い、効果的な活用方法について共通理解していく。	【努力指標】 ICT活用についての授業実践研修会を 考えを交流する場面や学習を深める場面でICTを活用することができる。	ICT活用についての授業実践研修会を A:年間7回以上 B:年間6回以上 C:年間5回以上 D:年間4回以下	0の場合には、取組について、検討、改善を行う。	GIGA校内研修会	7回 2/3時点	A ・月1回程度の校内研修を今後も継続して行っていく。	
	イ 5 カリキュラム・マネジメントを推進し、自ら考え行動する力を育成させる。	教務 (釜井)	(A:90%以上) ・総合的な学習の時間と生活科だけでなく、算数科や他の教科でも同様に実践するなど、取組範囲が広がった。	【満足度指標】 1人1台端末を使った授業が楽しく感じている。	楽しいと感じている児童が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	0の場合には、指導のあり方を検討する。	児童アンケート	98.2% 1:85.5% (+5.5%) 2:12.7% (-5.5%) 3:0% (-1.8%) 4:1.8% (+1.8%)	A ・自己決定を通してよりよい学び方を身に付けられるよう、積極的、意図的な活用を行う。	
	イ 5 カリキュラム・マネジメントを推進し、自ら考え行動する力を育成させる。	教務 (釜井)	(A:90%以上) ・総合的な学習の時間と生活科だけでなく、算数科や他の教科でも同様に実践するなど、取組範囲が広がった。	【努力指標】 カリキュラム・マネジメントの柱「自ら考え行動する力の育成」を意識して、指導を行っている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:80%未満	0の場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	100% 1:70% (+10%) 2:30% (-10%)	A ・探究的な活動の流れが児童にも定着しており、課題設定を児童としっかり共有することができた。また、単元を通して、見通しをもった活動ができていく。	
2 生徒指導の推進	ア 「めあて」や「きまり」に対する自己評価を定期的に行い、よりよい行動への意識と実践力を高める。	生徒指導 (柳田)	(A:90%以上) ・生活目標の取り組み方に慣れてきている。学校生活の生活習慣の一部ようになっていってほしいので、継続していく。	【成果指標】 生活目標を意識し、よりよい行動ができるように取り組んでいる。	生活目標のふり返りにおいて、児童肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	0の場合には、取組項目や方法について再検討する。	生活目標集計表	92.6% 中間:94% 9月:95% 10月:80% 11月:79% 12月:83%	A ・10月の「時間の使い方を工夫しよう」の肯定的評価が高かった。次年度も引き続き、ベル学、掃除・給食の取り組みを意識できるよう啓発していく。	
	イ 生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自他を大切にすることを育成する。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・規則正しい生活に対する意識が高まるように声掛けしていく。またメディアとの付き合い方を児童に啓発していく。	【成果指標】 自己のよりよい生活習慣の定着に取り組んでいる。	肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	0の場合には、自主的・実践的態度を育成するための手立てについて、再検討、工夫を講じる。	児童アンケート	94.4% 1:47.2% (-12.8%) 2:47.2% (+16.3%) 3:5.6% (+3.5%)	A ・目標を達成できていない児童に着目し、特に「メディアとの付き合い方」について、考える機会を設定する。生徒指導だよりで啓発していく。	
	イ 生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自他を大切にすることを育成する。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・今後も継続していき、より一人一人の頑張りを児童にも保護者にも広めていけるようにしていく。	【努力指標】 よさを認める場の設定や、よさを伝えることに積極的に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	0の場合には、自主的・実践的態度を育成するための手立てについて、再検討、工夫を講じる。	教員自己評価	100% 1:100% (±0%)	A ・11月に実施した全校いところ見付けでは、学年の垣根を超えて互いのよさを認め合い、温かい雰囲気が高まった。今後もタイミングを捉えて実施していきたい。	
	イ 生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自他を大切にすることを育成する。	生徒指導 (山口)	(B:80%以上) ・安心して過ごせる学校をさらに目指して、人の気持ちを考える機会をさらに設けたり、児童に柔軟な姿を伝え、広めていく。	【成果指標】 児童は、自分のよさに気づいている。	「自分にはよいところがある」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	0の場合には、体制及び運営について検討する。	児童アンケート	89.1% 1:71.0% (+14.6%) 2:18.1% (-16.4%) 3:9.1% (+3.6%) 4:1.8% (-1.8%)	B ・コミュニケーショントレーニングを継続し、児童はコミュニケーションのよさを実感したり、自分のよさに気づいたりすることができた。	
	ウ★ いじめ・不登校・問題行動の早期発見に努める。事業に対しては全職員での情報共有、迅速なケース会議を開催し、組織的に対応する。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・未然防止にさらに注力し、保護者と学校とがさらに協力できるように情報を発信していく。	【努力指標】 個別の支援シートを作成した児童を中心に、児童理解と支援を行うとともに、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	0の場合には、体制及び運営について検討する。	教員自己評価	100% 1:80% (-10%) 2:20% (+10%)	A ・情報交換をすることで未然防止や適切な初期対応をすることができた。今後も情報共有と共通実践を継続し、どの児童も安心して過ごせる学校づくりを継続していく。	
ウ★ 特別支援教育についての理解を深め、だれもが安心して学べる環境を整える。(SSRの活用)	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・個別に最適な学習の進め方や児童主導の授業スタイルにチャレンジしていく。	【努力指標】 学習や生活に生徒指導の視点を生かしている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	0の場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	100% 1:70% (-20%) 2:30% (+20%)	A ・自分で考え、つくる授業、行事を通して、自己効力感が育ってきている。		

3	情操豊かな心の育成	ア	道徳の授業を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。	道徳教育推進教師(瀬田)	(A:90%以上) ・別業の内容を見直し、重点目標について意識して指導できるようにしていく。 ・地域とも連携し、ゲストティーチャーを招く機会を設けていく。	【努力指標】 道徳の授業づくりを工夫する。 ア 中心発問の興味 イ 言語活動の充実 ウ 価値の自覚化 エ 道徳掲示の蓄積	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、道徳の授業展開の再検討を図る。	教員自己評価	・重点目標について行事等と絡めながら、日頃から意識して指導できるようにしていく。 ・学年だよりに道徳の授業実践を載せて家庭に知らせる活動を継続する。	100%	1:33.39% (-16.7%) 2:66.79% (+16.7%)	A	・全学年共通の重点目標と各学年の重点目標が、児童の実態と合わなくてきているので見直す。	
		イ	「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験活動、交流活動に取り組み、豊かな感性を養う。	教務(釜井)	(A:90%以上) ・年間を通して「金津の森活用計画」を推進することができた。高学年の金津の森プロジェクトは下級生の目にも触れるので、いつかは自分たちもできるといふ期待感を高めることができた。 ・3・4年生が新たに金津の森を発信していく手立てを考え、計画を具体化することができた。	【成果指標】 「金津の森活用計画」に基づき概ね活動できている。  【努力指標】 講師等を招き、体験活動の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、その要因を明らかにし、金津の森活用計画の内容について再検討する。	教員自己評価	・3年生以上の総合や1・2年生の生活科で金津の森を活用することができ、それぞれの学年に合った取り組みができています。  ・金津の森を活用した体験活動は充実しており、必要な学年は講師を招聘することができた。	100%	1:70% (+10%) 2:30% (-10%)	A	・金津の森フェスティバルを通して、それぞれの学年に応じた活用をすることができた。長期的・継続的な視点で活用の仕方を見直し、計画していきたい。  ・体験や交流活動を活発に行うことができた。どのような方に協力していただいたかを年間計画に位置付けたので、来年度も継続して活用していきたい。	・金津の森フェスティバルには、もっとボランティアを募集したらよい。  ・一行事の案内を発送した文書には、募集している旨を載せているものの、あまり認知されていなかったようなので、より目立つような工夫をしていきたい。
		ウ★	幼小連携では園との交流会の設定、小中連携では授業参観や情報の共有を通して、幼小・小中のスムーズな接続を推進する。	教務(釜井)	(A:90%以上) ・幼小連携では、交流活動を通して園児との円滑な接続を図ることができた。 ・小中連携では、合同の活動や情報交換を通して学びをつなげていくことができた。	【努力指標】 幼小の交流活動、小中の教職員合同学習会や相互授業参観、情報交換会の開催に取り組む。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	・幼小連携においては、交流活動を行うことで、相互理解を深めることができた。小中連携では、合同学習会や情報交換を通して実態の把握を行うことができた。	100%	1:80% (+10%) 2:20% (-10%)	A	・計画的に幼小の交流活動を行うことができた。保護者参観の機会も増え、円滑な接続を図ることができた。小中では、授業参観や情報交換を通して学びをつなげていく。	
4	健康と体力の向上	ア	「体力アップ1校1プラン」をもとに、体育の授業や「風っ子タイム」「ひのびタイム」を通して体力向上の目標達成に努める。	特別活動体力づくり(北)	(A:90%以上) ・今後も教科体育と体育行事を軸にしながら、楽しみながら児童の体力を向上させることができるようにしていく。 ・今後も、風っ子タイムで運動に親しみ機会を設け、運動が楽しいと思える児童を育てていく。	【努力指標】 教科体育において、課題となる運動能力の強化を含め、体力向上に取り組んでいる。  【満足度指標】 児童は、楽しく進んで運動に取り組んでいる	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	・付けた力を明確にし、達成感の感じられる授業開発に取り組んでいる。	100%	1:90% (+40%) 2:10% (-40%)	A	・今後も教科体育と体育行事を軸にしながら、楽しみながら児童の体力を向上させることができるようにしていく。	
		イ	健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を図る。	保健安全(山本)	(A:90%以上) ・基本的な生活習慣の確立のために、家庭との連携を図った強化週間を設定する。 ・生活習慣の基盤である「早寝早起き朝ご飯・歯みがき」について関係機関(学校医・栄養教諭等)と連携した指導の充実を図る(保護者参観型形式など)。  【成果指標】 家庭の協力を得て、児童は基本的な生活習慣を送ろうと取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	児童アンケート 体力アップ1校1プラン実施状況	・マラソンチャレンジや、縄跳び集会等、学期に1回の風っ子タイムを通して、運動に親しみ機会を設けている。	94.6%	1:61.9% (-23.6%) 2:32.7% (+18.2%) 3:3.6% (+3.6%) 4:1.8% (+1.8%)	A	・1と回答した児童が減少したが、児童の体力向上は本校の課題であるため、風っ子タイムを通して、運動に親しみ児童を増やすことを目指す。	・横山朝日町は、集団登校の出発時刻を年度途中から遅らせたが、学校に間に合っているか。	
5	家庭や地域から信頼される学校づくりの推進	ア	各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。	教頭(遠田)情報(北)  教頭(遠田)	(A:90%以上) ・コドモンでは、スマートフォンで見る保護者も多いと思われるため、スマートフォンでも見やすいように写真を多く入れた。文字の大きさに配慮したりした、便利を心掛けていく。 ・今後も計画的に配信や更新を行っていく。また、ホームページの更新も保護者に伝えていく。	【努力・満足度指標】 HPや学校だより等各媒体より、学校の情報を発信している。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	・6月に保護者参観型の学校歯科による歯みがき教室を実施した。 ・性教育やメンタルヘルス等、SCや地域人材による取組を積極的に実施した。	100%	1:90% (+20%) 2:10% (-20%)	A	・児童の健康課題を捉え、地域資源を活用した取組を取り入れていく。来年度も歯科保健や食育、性教育、メンタルヘルスについては地域人材に依頼する。	
		イ	効率的効果的な働き方を意識した業務内容の見直し、及び定時退校日、学校閉庁日の意識化を図り、時間外勤務時間80時間を超えゼロ、年間360時間以下を目指す。	教頭(遠田)	(A:90%以上) ・勤務時間管理を意識した働き方を促すことで、業務改善の意識を高めるとともに、教職に対するやりがいを高めるような職場づくりを目指していく。	肯定的な評価をする保護者が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	強化週間 児童保護者自己評価	・養教による指導後に歯みがき強化週間を実施した。全児童が目当てを達成できた。 ・生活習慣強化週間を実施し、家庭の協力を得て、取り組んだ。	94.2%	1:90.4% (+0.7%) 2:3.8% (-3.1%) 3:5.8% (+2.4%)	A	・来年度も体育の行事前に「早寝早起き朝ご飯」を家庭に呼び掛けていく。保護者が参観できるよう日時や内容を工夫する。		
6	多忙化改善と人材育成	ア	効率的効果的な働き方を意識した業務内容の見直し、及び定時退校日、学校閉庁日の意識化を図り、時間外勤務時間80時間を超えゼロ、年間360時間以下を目指す。	教頭(遠田)	(A:90%以上) ・勤務時間管理を意識した働き方を促すことで、業務改善の意識を高めるとともに、教職に対するやりがいを高めるような職場づくりを目指していく。	【成果指標】 業務改善の取組が勤務時間の改善に表れている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	・コドモン(電子媒体)の活用により、保護者に対する情報発信をさかんに行っている。 ・ホームページの更新も積極的に進んでいるが、地域への発信については、工夫が必要である。	100%	1:80% (±0%) 2:20% (±0%)	A	・学年だより他、校務分掌から通信を発生するなど、発信内容を工夫する。	
		ウ	学級経営や学校運営への参画意識を高められるようPDCAサイクルを意識した提案と達成状況の把握、責任を持った業務の遂行に努める。	教頭(遠田)	(A:90%以上) ・今後も、全職員の共通理解・共通行動が図られるよう、各担当がわかりやすい提案に努めていく。PDCAについては、特に検証・改善を確実にし、さらによりよいものにしていく。	【努力指標】 PDCAサイクルを意識して、担当業務を進めている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、指導、改善を行う。	教員自己評価	・時間外勤務時間は適正であるが、多くの業務を短時間でこなすことに負荷を感じる職員が多いと考えられる。	100%	1:27.3% (+17.3%) 2:72.7% (-7.3%) 3:0% (-10%)	A	・職員がやりがいを共有できるような、職員室の環境づくりに努める。	(その他) ・金津の森フェスティバル、ワールドコミュニケーション、見守り活動等、様々な活動があるが、立場や役割を明確にする必要がある。
													A	・意図的に立ち止まって考える機会をつくり、担当者だけでなく、組織で検証・改善を行う。	・スクールバスの通便があるが、金津小学校に進学した児童が増えるのではないかと考える。